

東京二重生活で見つけたもの

人の波、都会の鼓動。地方から来た私を待ち受けていたのは、想像をはるかに超える東京のエネルギーだった。平日は東京で文部科学省の職務に励み、週末は地方の我が家で家族と過ごす二重生活。この2ヶ月間で、私は多くの驚きと発見を経験した。

特に、満員電車では、「もうこれ以上乗車できないだろう」と思っている、さらに人が乗ってくる。ドア付近に挟まれそうになっている人を、駅員さんがまるで物のように押している光景を目の当たりにした時は、地方出身の私には衝撃的だった。

地方では車を使ってのんびりと移動できるのがリフレッシュになる。この二重生活のおかげで、東京と地方の違いを実感する日々である。

小学校教員として20年、町教育委員会の指導主事として5年の経験を経て、現在は文部科学省での1年目。教員時代は子供たちとの関わりが中心だったが、指導主事になってからは大人との関わりが増えた。この経験を通じて、様々な視点から教育を見つめ直すことができている。

今は、地方での経験が東京での業務にどのように役立つかを考えることが多い。子供たちとの関わりを通じて学んだこと、大人との関わりを通じて感じたこと、それぞれが私の中で結びつき、新たな視点を提供してくれている。新たな視点を持ち続けることで、より良い教育環境を作り上げるためのアイデアを生み出し続けることができていると思っている。

東京と地方、それぞれの生活には異なる魅力がある。都会の刺激的な環境は、私を大きく成長させてくれる。一方、地方のゆったりとした時間の流れは、心身のリフレッシュに欠かせない。これからも、この二重生活を通じて、より良い教育の実現に向けて努力していきたい。

(H.T)

